

心疾患治療を核に高度医療を展開

⑫④ 千葉西総合病院 (千葉県松戸市)



機能的重視のイメージ艦というコンセプトは外観にも反映している

日本人の三大死因で第2位を占める心疾患。中でも虚血性心疾患は超高齢社会の到来で一般的な疾患になった。心臓の筋肉(心筋)に酸素や栄養を運ぶ冠動脈が狭くなったり詰まったりして十分な血液が流れなくなると、心臓はエネルギー不足となる。この状態が「虚血」で、一過性の場合には狭心症、心筋が壊死した場合が心筋梗塞だ。

千葉西総合病院は心疾患治療で世界的に知られ、米国や中国、モンゴルなどからも患者がやってくる。外国語対応のコンシェルジュもあり、今年2月には厚生労働省所管の「外国人患者受入れ医

療機関認証制度」(JMIP)を取得した。

治療には薬物療法、カテーテル治療、手術(心臓血管外科手術)の三つがあるが、同病院の心臓カテーテル治療は2014年に3000例を突破、同年まで6年連続日本一、心臓血管外科で低侵襲の手術(ステントグラフト)では13年に日本一を記録した。

心臓カテーテル治療はカテーテル(細い管)を使った患者負担の少ない治療法で、手術時間や入院期間が短く、早く社会復帰できる。

山崎敏憲・事務部長は「高度な石灰化病変に有効なダイヤモンド・ドリルのロータブレーターや、



国際空港をイメージした明るく開放的なロビー



宇宙船のコックピットをイメージさせるカテーテルスタジオ



動線の妨げとなる柱を使わない無柱構造のICU手術室、心臓カテーテル室とのアクセスも良い



血管造影装置が入ったハイブリッド手術室



セキュリティも充実した特別室



手術室に直接搬送できる構造になっている屋上ヘリポート

血栓性病変にも使えるエキシマ・レーザーなどを駆使することで、心臓血管外科手術しか治療方法がなかった高齢患者も開胸しないで済むカテーテル治療で治せるようになりました」と話す。レーザーは膝下や足先の血管も治療できるので、「糖尿病性壊疽の治療にも威力を発揮し、足を切断せずに済む患者が増えています」(山崎部長)という。

13年に完成した新本館は、防衛(「患者の命を守る」の意)に重点を置き、機能を研ぎ澄ました「イメージ艦」がコンセプト。「年中無休・24時間オープンで絶対救急を断らない」「早く、確実に一人で

も多くの患者様を救命します」など五つの基本方針を守るため、機能的な救急医療体制や最新鋭設備を多数導入。中でも、三角和雄院長が心臓病センター長として臨む「カテーテルスタジオ」は6室の血管造影室を同時に制御できる世界初といえる施設だ。手術の成功率は99.3%を誇る。

14年には旧病院を別館(アネックス館)として建て替え、小児科や産婦人科、健康管理センターを拡充。本館と別館を合わせた病床数は608床となった。こうして千葉西総合病院は地域医療の中核病院として新たなスタートを切っている。